

## 福山駅前アクション会議（第2回）

日時：2019年8月21日（水）18時30分

場所：福寿会館

### 議論内容（概要）

〈開会挨拶〉

#### 【福山駅前再生推進部長 池田】

- ・福山城は2022年に築城400年を迎える。昨年度から4ヵ年で樹木伐採に取り組んでいる。今後は二の丸の西側の石垣の修復にも取り組む。試験的に取り組んでいる福山城のライトアップを次年度からの本格的な運用に向けて順次整備を進めている。
- ・今年度は初代藩主の水野勝成公が入封して400年、ゆかりの地域で記念行事を計画している。9月21、22、23日の3連休に福山城で記念行事を予定している。夜の魅力アップとしてジャズナイトや幸盛ナイトなども予定されている。
- ・駅前再生の観点からいくと福山城を日常的にどう使うかが大切である。今日の議論をデザイン会議に報告し、デザイン計画に盛り込んでいきたい。

#### 【ファシリテーター 清水義次さん】

- ・お城と周囲の町をどう変えていったらよいか、なんでも構わないので意見やアイデアを発言してほしい。この場で言いにくいことは駅前再生推進室に相談に来てほしい。行政と民間が一緒になってこれから長続きするまちをつくろうというのがこの会議の主旨である。面白いアイデアをこの周辺で実現してほしい。

〈開催趣旨とテーマについて〉

#### 【事務局 瀬尾】

- ・アクション会議はエリアビジョンをテーマに新しい公民連携のプロジェクトを生むための議論をする場である。
- ・この会議で議論されるエリアのビジョンやプロジェクトをデザイン計画に反映して実現可能性のある計画にしたい。
- ・デザイン計画は2018年3月に策定した駅前再生ビジョンを具現化するための具体的なプロジェクトを織り込んだもので、アクション会議とデザイン会議の議論から作り上げる。
- ・2ヵ年かけて作成する予定で、1年過ぎた今年3月に中間とりまとめを公表、今年度末にはまとめていきたい。
- ・デザイン計画策定のプロセスは、従来の「計画する→ハードを作る→出来上がったものを使う」という流れではなく、矢印を反対の向きにして使う人作る人の意見を反映し、最後に行政がまとめるプロセスを取りたい。

- ・アクション会議は使う人，作る人が集まる場なので，皆さんの思いをまとめてデザイン計画に反映させたい。
- ・エリアビジョンは駅前を，福山城，伏見町，三之丸町，中央公園の4つのエリアに分けて，それぞれの将来のビジョンを掲げそれを実現するためのプロジェクトを紐つけていくものである。
- ・デザイン会議やトレジャーハンティングなどで提案されたものを元に中間とりまとめとして公表している。
- ・福山城周辺エリアの暫定ビジョンは，歴史，文化資源を活用した普段使いの憩いの場，である。このエリアビジョンを踏まえながらも，違う角度からの議論もいただきたい。
- ・今日のディスカッションのテーマは「アートのある日常」である。福山城周辺の様々な空間の使い方のアイデアを提案してほしい。
- ・ゲストスピーカー大月ヒロ子さんの紹介（割愛）

〈ゲストトーク〉

【有限会社アイデア代表取締役 大月ヒロ子さん】

- ・今日はクリエイティブリユースといって町の中からでてくる廃材や端材，土地や空間を使って創造的な活用をする活動事例を紹介したい。
- ・新倉敷駅の南にある江戸時代に栄えた港町で，干拓でできた古い町に実家があり，リノベーションして町の人たちを開き，宿泊やワークショップなどに使えるようにした。
- ・廃材に光を当てて次の命を吹き込みたいと活動している。廃材を使うにあたっては，よく観察することで魅力が浮かび上がる。
- ・人それぞれの廃材の捉え方の違いで多様性を感じることが出来るワークショップもできる。そこに着目して廃材カードやカードゲーム，ゲームアプリを作った。物のイメージや個人個人の気づきを共有して仲良くなれるゲームである。
- ・町の中で見つけたデザインの要素をストックしている端切れでアップリケをして，その布で服を作る。西尾美也さんと一緒に作品作りをした。家庭用編み機と工場で余った糸を使って，ニットアーティスト・宮田明日鹿さんが町の風景や思い出の写真を編み出しパターン化して洋服を作った。
- ・福祉の作業所「たんぼぼ」でさおり織りの端材をもらい，作業所の人々と交流をしたりした。
- ・コンテンポラリーダンスの舞台衣装作りやマテリアルライブラリーを整えるワークショップのプロジェクトもしている。
- ・オレンジハイムというアパートをシェアアパートにし，大学のゼミで使用している。「あげたりもらったり」の物々交換プロジェクトや玉島まちおプロジェクトもある。
- ・水辺のキッチンプロジェクトとして，水路沿いにある古い家屋を改修している。
- ・商店街の中の大きな洋装店をアートスペースにしてコンサート会場にも使っている。

- ・玉島での実験を他の地域に持って行き、コンサルティングのようなこともしている。上野の美術館や、ソウル、調布、北九州、京都、岡山などで行った。
- ・クリエイティブリユースを通じて自分が住んでいる町がどんな町か廃材が教えてくれ、廃材をきっかけに人と知り合い繋がるができる。色んな地域でワークショップを開いているので参加者が玉島に遊びに来る。リポートしていくうちに移住してくるというようなことも起きている。

#### 〈実践者による事例発表〉

##### 【猪原さん】

- ・ふくやま大道芸実行委員長，えがおのまちづくりステッキ代表理事を務めている。この活動は第5回福山ブランドに認定されている。
- ・まちづくりステッキは、大道芸の活動を通じて社会的参加が難しい人も積極的に町に出て誰も取りこぼされない笑顔のまちづくりを目指している。
- ・ふくやま大道芸は今年20回目で全国から審査で選ばれた50組以上が集まる西日本最大の大道芸のお祭りで、バラ祭り期間中は大道芸だけで23万人の集客があったと市長さんが発表していた。街角15箇所ですべて同時に2日間パフォーマンスやアートが繰り広げられ、フィナーレは中央公園で決勝を行う。
- ・医療的ケア児という外出が難しい子どもたちにこういう場を共有してほしいので、ふくやま大道芸の期間中に招待する企画をやっている。
- ・美術館に行ってアートに触れるのもいいが、思いがけず出会うアートも大切で、それが公共空間におけるアートではないか。町にアートを増やしたいと活動している。

##### 【竹内さん】

- ・伏見町でファインアートギャラリーを9月にオープンさせることになった。普段は鉄の彫刻や造形をしている。きっかけは1月にあった第3回リノベーションスクールである。
- ・名称はギャラリーフクヤマツイスト，人と人が交わる場所にしたいと決めた。
- ・ギャラリーをやりたい理由は、福山には自分の活動を表現する場がないからで、ものづくりを発表する場は結構あるが、ファインアートをやっている人たちで実績が無い人たちの発表の場が無く、商業アートをするしかないのが現状である。
- ・9月15日に FUSHIMI de SUNDAY というオープニングイベントを伏見町の AREA INN FUSHIMICHO，池口精肉店，ロウエンと合同で開催する。ぜひ来てもらって言葉ではなく実感してほしい。

##### 【江島さん】

- ・私は竹原市出身で、八天堂シンガポールでマネージャーを勤めた後、今年サン・クレアに入社した。

- ・サン・クレアはビジネスホテルを経営する会社で、単に寝泊りするだけでなく、地域の魅力を体感できるホテルを作りたいという思いから、2018年12月にアンカーホテル福山をオープンした。コンセプトは「その町に暮らすように泊まる」。町の人も気軽に訪れて旅行客と交流する。ホテルを地域のコミュニティーのハブとして人と人が繋がる場所にしたい。館内には多くの地元産プロダクトを用意している。
- ・課題としては、利用者は宿泊者が大部分で、外からの客が少ない。地元の人に知ってもらい足を運んでもらうことが必要と考え、四半期ごとのマルシェ企画を実行している。
- ・6月はアンカーパンマルシェを行い、2日間で500名来場し、新規、地元顧客の獲得に成功した。SNSも活用し効果が見えた。メディアでも取り上げられた。
- ・次回は9月28、29日にスイーツマルシェを開催予定している。
- ・モノ消費からコト消費に移行しており、いい物を作るだけでなく物とお客様を繋いでいく仕掛けが必要だと感じている。
- ・1個人1企業だと出来ることは限られるのでコラボレーションを積極的に行っていきたい。

#### 〈意見交換〉

- ・鞆の浦で2012年に鞆の津ミュージアムを立ち上げた。現在はクシノテラスというギャラリーを運営している。2010年から5年間ふくやまアートウォークという現代アートの芸術祭でキュレーターをしていた。見えてきた課題として、期間中はお客さんが沢山来てくれるが、イベントが終わると祭りの後という状態になる。理由は自分たちが主役じゃないからだと思う。地域住民がアートに対して身近な意識を持っていない。
- ・アウトサイダーアートといって専門家で無い、地域の人が生み出す芸術の発掘や調査をして、紹介している。そういう人を展覧会で紹介したり、各地から色んな人を福山に招き入れて福山を巡ろうというバスツアーを開催したりしている。
- ・現代アーティストやアートに素養のある人を取り上げるのではなく、おかんアートなど地域の人にとって自分事として考えてもらうことがアートを根付かせるためには大事だと思う。
- ・金沢の出身で今は尾道に住んでいる。金沢市には21世紀美術館がある。伝統工芸のまちである金沢に現代芸術を持って来たことで見に来る人がたくさんいる。市民も誰でも入れて、周遊できるので美術館が自分の場所のようで、市民の日常の中にある。そういう場所が福山にもあると魅力的ではないか。
- ・えがおのまちづくりステッキの職員をしている。パフォーマンスアーツは人がいて成り立つので、どうやって人を巻き込んでいく場づくりをしたのか。人の集め方、運営について聞きたい。

- ・場所に入りやすい方がいいので、私のラボは中で何をやっているかわかるようにガラス張りにしている。道路と同じ高さで、フラットに土足で奥まで入れる。オープンするときに本を作ったのでそれを読んで興味を持ち訪ねてくれた人もいる。広報のツールはフェイスブック、ツイッターがメインで、口コミでも広がった。
- ・リノベーションスクールのメンバーは本業が有るので一緒にやるのは難しい。自分がメインでやっている。作品を店舗の前に置いていると足を止めてくれる人がいる。SNSをやっていると訪ねて来て手伝ってくれたりする。
- ・スイーツマルシェの場合、出店者に関しては、声かけは実際の出店数の倍以上した。配送、設営など普段の運営より多くのエネルギーが要るので断られる場合もある。福山を盛り上げていきたいという思いを話すと出店しますと言われる。思いが伝わるかが大切だと思う。
- ・メンバーに関しては、思い切って任せてみた。1つ1つの成功体験が次に繋がる。お客様に関しては、まず知ってもらうのが大事なので SNS の有料広告を活用した。またプレスリリースを出せば興味を持った人の目に留まり取材してもらえる。
- ・榎野さんが扱っているスポットでその場で何か作られている現場はあるか。現在は外の道路から扉や仕切りなどで製作の現場が閉ざされ過ぎていて、物の出来上がる過程の魅力的な時間が共有できていないのがアートを遠くに感じる原因なのではと感じる。
- ・商店街や中小の作業場はそういうものを見せられるいい場所なので、そのあたりを突破口にまちづくりをしていくと町の人がアートを身近に感じられるのではないかと思う。
- ・現場に行かなければわからないのでツアーをやっている。参加者と製作者が出会うことで相乗効果がある。製作者は社会に認められるきっかけになり、参加者は生の製作現場が見られる。本来は公共事業としてされないといけない。
- ・一番大きな変化は「たまや玉島」ができたこと。仲間が物件を買ってそこでライブをしたりアーティストがやって来たりするようになった。物件を見に来る人もいるのでこれから何か起こるかもしれない。
- ・福寿会館のことを調べたら、琴や着物、茶道など日本文化の体験ができる場で、そういう場所が新幹線の停まる駅前にあるのはアクセスがいい。
- ・広島は欧米豪の客が多い特色があるので、そのあたりが活かさないか。受け入れる側に整備が必要なら市から補助を出すとか、駅周辺にせっかくある公共施設の機能を、訪日の人にターゲットを絞って考えたら福山がもっと盛り上がるのではないか。

- これからはインバウンドの引き込みは大変重要である。広島県のフィールドワークに参加したとき広島の観光スポットでインバウンドにインタビューしたら、日本には1週間ほど滞在しているが広島は日帰りか1泊で、行き先は宮島、原爆ドームのみである。
- 瀬戸内や尾道に何故行かないかという、2次交通が整っていないからだそうだ。交通の面や宿泊の面、そういったところから整えていかないといけない。地域に眠っている魅力を発掘して、お客様への伝え方や見せ方を磨いていかないといけない。
- 来年の広島トリエンナーレの会場が、三原、尾道、福山になった。メインターゲットはインバウンドも含め関西や東京から来る人たちである。その人たちが最初に降りるのは福山駅になると思う。宿泊も尾道では足りないのだから福山になる。福山はメイン会場なのに駅前にアートとして魅力がないと尾道だけがメイン会場にみられ勿体無い。だからその時期に駅周辺で多発的に大道芸を見せるアートとしてやりたい。それ以外に美術館、福山城公園を上手く活用し、アートのまちづくりをやっていかないといけない。
- 福寿会館は誰でも借りることができる。月見櫓はお城を正面に見ることができ、後ろは福山駅となる。こちらでも誰でも借りることが出来る。まずはそれを知っていただきたい。
- お城も取っ付きにくいというイメージがあるのかもしれないので、知ることからはじめたい。ちなみに和文化体験は3月で一旦休止されている。
- 福山城に魅力が欠けるのは、本物でないからだろう。築城400年を機に木造再建を願っていたが、耐震対応で済ませることになった。
- 福山城は南側から見る景観が西国一美しい城と言われていた。せめて移築した神辺一番櫓を木造で再建したらそれだけで城の価値が上がる。
- 色んな町を見てみて一番贅沢だと思うのはアートストリートで、町で日常自分たちの通る路上にアートがある町並みだと思う。
- 福山にも大黒町、胡町などに灯籠があり、アートなストリートが形成されているところがいくつかある。行政の力を借りアートに予算をいただいて、例えばここはイルミネーションストリートをやろうとかができないか。
- 福山は点在化していて繋がりが無いと言われているが、ストリートがあればそこが拠点となって住みたい心豊かな町になるのではないか。
- 今日の会場である福寿会館はどれくらいの利用があるのか。空いている日が多いからもっと活用したいという話か。
- 年間で約1万4,000人となっている。空いている日もあるし、今までとは違った使い

方が出来ないかということである。

- ・福山では土日をどう費やすかとなると、ポートプラザ、フジグランなどでウインドーショッピングをしている。日によってはそこでイベントがある。土曜夜店もある。分かりやすいものが好き。
- ・20年前まで夜店は人がいなかった。20年かけて商店街の人が頑張って土曜の夜はすごい人が来るようになった。再度盛り上げることができた成功例だと思う。
- ・確かにショッピングモールも好きだが、それだけで満足していない人もいるだろうから色々できることはあるのではないかと思う。
- ・天守閣前広場の利用の話として、商工会議所青年部が3年前から1月上旬に豆まきイベントをやっている。全国で一番早い豆まきということで今年は2,000人の参加があった。人が増えると様々なイベントが企画される。大黒町の徳永製菓がカプセルに入った豆に体験型のくじを入れて、イベントが終わっても大黒町に人が流れる仕掛けをつくった。来年の1月4日も予定している。
- ・色んな施設が使われていないのであれば使いやすくする工夫がいる。管理の仕方を変えていくのが大きな課題なのかもしれない。
- ・大月さんの話を福山に当てはめると、福山は多様な製造業の町であって、いらないもの、捨てられているものが街中で表現されると面白いのではないか。
- ・神辺で廃棄物の処理をしている。大月さんの本を読んでワークショップも体験し、ものが見方が変わった。学校や公民館でワークショップを行っている。興味がある人がいれば連携してやっていきたい。
- ・英語でプレシャスプラスチックと検索すると面白い動画が出てくる。オランダの人がプラスチックを粉碎して成型し色んなものを作っている。プレシャスプラスチックのやり方が動画で公開されているので興味のある人は見てほしい。そういうこともアートな体験の場になると思うので声をかけてほしい。

以上